

別紙参考様式 2

令和 2 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立三永小学校

学校長名 林 万 青 也

1 研究主題、研究内容・方法等について

(1) 研究主題

論理的に思考し、自ら考えを形成する力を高める国語科授業の創造
～探究的な学びを支える「なぞ（問い）」と自己内対話の指導の工夫を通して～

(2) 主題設定の理由

AI 技術の発達により、産業や働き方が大きく変化する Society5.0 を迎えようとしている。『Society5.0 に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～（文部科学省平成 30 年 6 月）』では、人間の強みは、現実世界を理解し、意味付けできることであると述べている。また、人間の強みを発揮する基盤として、「文章や情報を正確に理解し、論理的思考を行うための読解力や、他者と協働して思考・判断・表現を深める対話力等の社会的スキルなど、読み解き、対話する力が決定的に重要である。」と述べている。これは、国語科の目標で育成を目指している資質・能力と重なる点が多くあり、この国語科を通して身に付けた力を他教科や日常でも活用することで、より定着を図ることができるようになると思える。

本校では、昨年度より、国語科の文学的な文章を読み解き、自分の考えを形成する力の育成に取り組んできた。児童が考えた「なぞ（問い）」から学習課題を設定することにより、主体的に自分の考えをもち、課題を解決することができるようになってきた。また、友達の考えとの相違点を考えながら対話を行い、自分の考えを形成することができるようになってきた。一方、考えを形成する際、根拠の取り出し方が分からなかったり、理由を述べることができなかつたりした児童や、友達の考えを写すだけになってしまった児童も見られた。論理的に思考し、自ら考えを形成する力を高める必要があると考えた。

そこで、本年度は、昨年を取組を生かして、根拠や理由をより明らかにした自己の考えの形成をめざし、児童の主体的かつ言語活動につながる探究的な学びの過程を工夫することにした。特に、①教師が深い教材研究を行い、身に付けさせたい力を明確化した上でファシリテートする②学習を進めるうちに新たに出てきた「なぞ（問い）」も大切にし、解決にむけて、自分の考えの形成につなげる③自分の考えを形成していく際には、自他の考えの吟味・評価を行う自己内対話の指導を行うことにした。

(3) 研究仮説

文学的な文章の授業において、教師が深い教材研究を行い、児童の考えた「なぜ（問い）」や学習を進めるうちに出てきた「なぜ（問い）」をファシリテートしたり、自他の考えの吟味・評価を行う活動や、振り返り活動を取り入れ指導を工夫したりすることにより、児童は、自分の考えの形成に向けて自ら課題を解決し、根拠と理由を明確にして、考えを形成する力を高めることができるであろう。

(4) 研究の内容

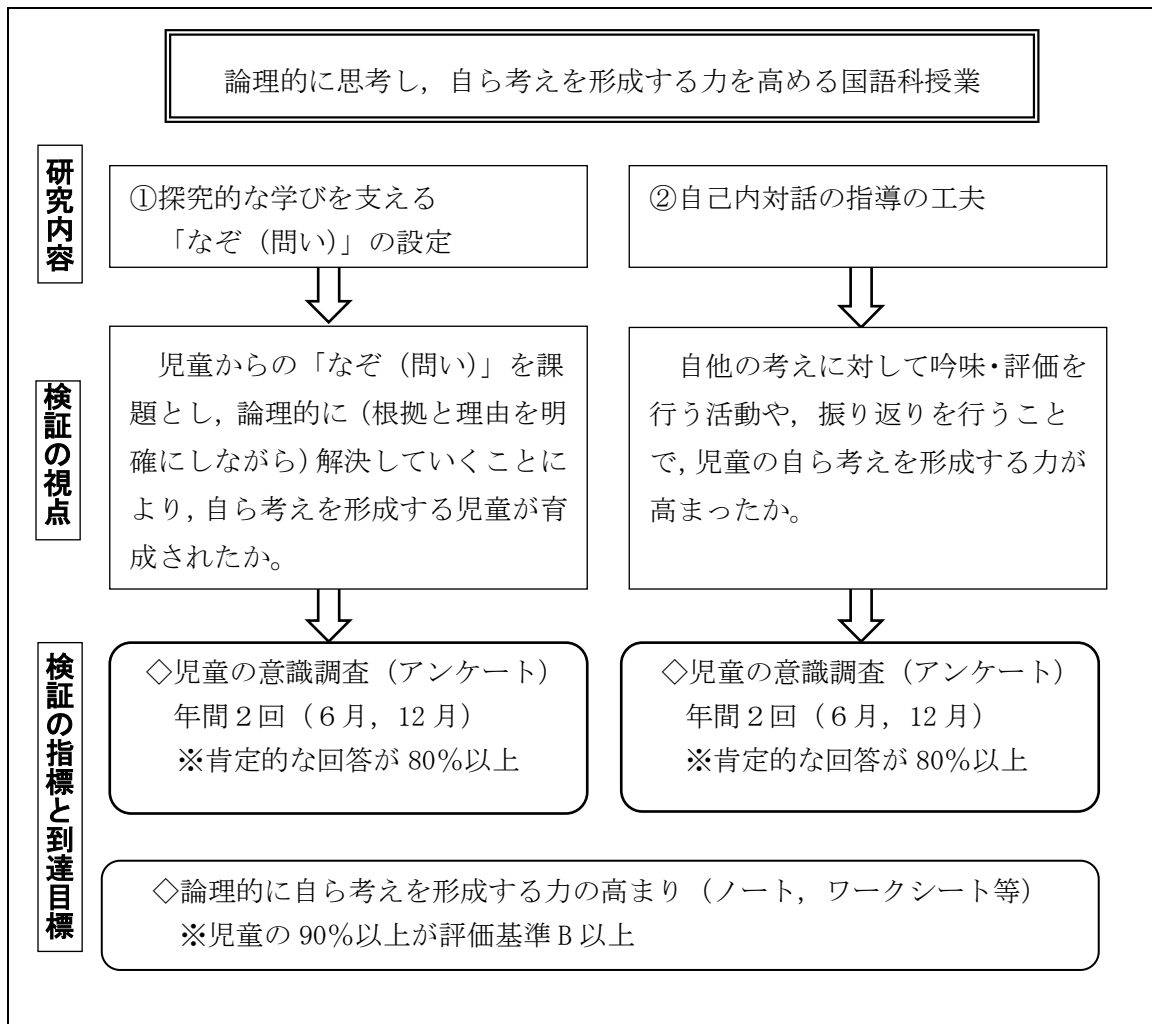
① 探究的な学びを支える「なぜ（問い）」の設定

- ・児童が考えた「なぜ（問い）」を教師がファシリテートできるようにするために、深い教材研究を行い、授業で身に付けたい力を明確にし、言語活動を設定する。

② 自己内対話の指導の工夫

- ・他者や自分の考えに対して、吟味・評価を行う。
- ・次の学びへつながる「振り返り」を工夫する。

2 検証計画



3 校内研修計画

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・研修組織決定 ・校内研修年間計画作成 ・研究の方向性について 	P D C A C A P	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・理論研修 ・意識調査, 分析 		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・教材分析, 指導案作成, 指導案検討 		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践(高学年) 		
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動研修 ・特別支援研修 ・生徒指導研修 ・指導案の修正 ・教材分析, 指導案作成, 指導案検討 		
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・教材分析, 指導案作成 		
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・教材分析, 指導案作成, 指導案検討 ・授業実践(低, 高) 		
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・教材分析, 指導案作成, 指導案検討 ・授業実践(低, 中, 高) 		
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・教材分析, 指導案作成, 指導案検討 ・授業実践(中, 特支) ・意識調査, 分析 ・研究の成果と課題の整理 		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要の作成 		
2・3月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の課題整理 ・次年度の研究の方向性確認 		

※ 各研修において、ワークショップ型や「Round Study」等の方法を取り入れることで意欲的に参加することができるようにする。

4 研究公開の予定について

本年度, 公開予定なし